



## 志木の家 Pendii

### CONCEPT

アウトドアを趣味とする家族は、庭と一体となった自然が楽しめる住宅を望まれた。そして、小さなお子さんが、庭にいても子供部屋にいても、安心して台所仕事ができるような繋がり感がある空間が欲しいとのこと。そこで課題となったのは、住宅街において、内から外に開けば外からも内部が見通されてしまう自然の状況の中で、いかにしてプライバシーを確保しながら、庭や環境と調和のとれた空間を創るかであった。

### ■ 開く場所、こもる場所：

そこでまず、リビングを庭と一体となった「開く場所」として良い、大きく確保できる配線を採った。さらに必要な室を「こもる場所」としてその周囲に設え、中央が開き、東西に閉じた建物の基本構成を導いた。この形態は日射をコントロールするのに適しており、あと屋根の作り方が鍵となった。

2F OUTER DECK

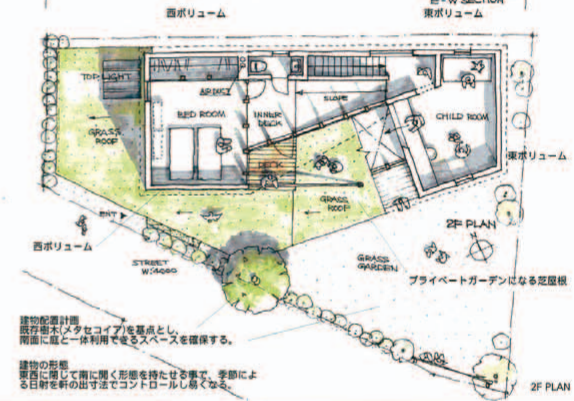
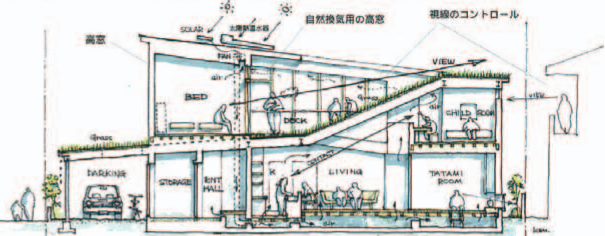
芝屋根は夏熱断熱効果を高めると共に、近隣からの視線を遮る庭の役割を担う。

### ■ スロープと芝屋根：

隣地北側への日当たりの配慮もあり東のボリュームは低く抑えたかった。そこで、西ボリュームとの間に発生する2階の高低差をスロープで緩やかにつなげた。同様に2階デッキから子供部屋の屋根をスロープでつなげると、子供室と居間をつなぐ吹抜を維持したまま、覆屋の外に広い屋根面ができる。その屋根を覆屋の庇と見立てると、隣家との目隠しを兼ねたプライベートガーデンが創出できると同時に、緑化の効果で1階居室の熱環境を安定させることができると考えた。

### ■ 屋内環境：

吹抜により上下に温度差が偏ってしまう空気は、太陽光発電パネルに直結したファンで循環させ、内装材の珪藻土や綿甲斐床材と相まって、熱環境と湿度を適度に保つと共に、床下の換気も兼ねている。



建築物計画  
既存木(メタセコイア)を基点とし、  
両面に庭と一体利用できるスペースを確保する。

建物の形態  
屋根に準じて奥に開く形態を持たせる事で、季節による日射を軒の出でコントロールし易くなる。



SOUTH ELEVATION

大きな既存木(メタセコイア)とナンテンの根幹が道路に面する。外壁は経年変化に追従する火山灰仕上。



DECK & LIVING

庭と一体利用できる空間。キッチンからも庭の様子が見える。



LIVING & DINING

開いた空間であるLDを中心に、こもった空間である和室やキッチンが付随する。



2F INNER DECK

2階廊下は冬場には物干スペースを兼ねた高室となる。上部にたまる暖気は、太陽光発電パネルに直結したファンで床下へと送られ、1階の暖房をサポートする。



プライバシーの保たれた開放的な庭室。

緑化屋根はお金をかけて施工しても、良し悪しはわからない場合がほとんど。ここでは光を遮る庇のプライベートガーデンを得ることができた。



アプローチ



1F ROOF



PARKING



NIGHT SCAPE



2F CHILD ROOM

珪藻土は調湿と断熱効果を持つ。室内の空気を常に動かすその効果も高くなる。



FAN

(左) ファンとバッテリーボックス (下) 太陽光発電パネルJDC12V系とPC用ファン、2000mm×235A 290

<建築概要>

建築種別	単戸建て新築住宅(分譲)
建築面積	113.25㎡
延床面積	113.25㎡
建築費	170.35万円
構造	木造
基礎	基礎
内装	珪藻土・珪藻土・珪藻土
外装	珪藻土・珪藻土・珪藻土
設備	太陽光発電・太陽熱温水器・太陽熱暖房・太陽熱乾燥機・太陽熱乾燥機・太陽熱乾燥機
その他	太陽熱温水器・太陽熱暖房・太陽熱乾燥機・太陽熱乾燥機・太陽熱乾燥機



「こもる場所」

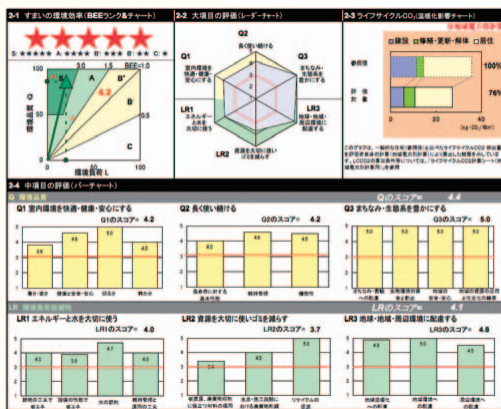
1F PLAN



外観



内観



CASBEE 評価

## タイトル

# 志木の家 Pendii

## 講評

中2階から西側のアプローチまで、芝でおおわれている片流れの屋根。このグラスルーフが2階居室の庭となり、その断熱性により、1階の居室を良好な熱環境へと導く。芝の緑は南側のグラスガーデンへと続く。

道路沿いのナンテン垣根の中心に大きな既存樹木、メタセコイア。緑が白壁に映り、グラスルーフへと続く。道路を通る人々の目をなごませる。芝屋根を中心に建物と敷地、そして外部空間が一体化する。内から、そして外からも、やすらぎを感じるこの緑のステキな環境は、最優秀賞にふさわしい作品である。(審査委員:片淵 重幸)

## データ

所在地 ■ 志木市

構造・階数 ■ 木造+S造・2階

敷地面積 ■ 175.46㎡

延床面積 ■ 133.75㎡

建築面積 ■ 87.60㎡

完成年月 ■ 平成18年12月

総工事費 ■ 約 3,200 万円

居住者構成 ■ 15歳未満:1人、15歳以上65歳未満:2人

設計者 ■ スタジオ・アーキファーム一級建築士事務所 峯田 建+恩田 恵以

施工者 ■ ノムラ建工株式会社 担当 野村 佳男

## 住まい手から一言

この家のユニークな外観、構造について文章で表現するのは難しいのでアーキファームさんに譲るとしても、一言で表現するとしたら「呼吸している家」と言うのがふさわしいと感じています。屋根の半分以上を覆う芝は暑い夏の太陽熱と冬の寒さの侵入を防ぎ、その緑は観賞の対象でもあります。珪藻土の壁とアーキファームさん独自の室内空気循環システムが室内の湿度を適度に調整してくれ、カビや窓の結露の問題は皆無です。リビング側は大きなガラス面となっておりますが、そのガラス越しのテラスの上には計算されたであろう屋根の張り出し寸法により、角度の高い夏の日差しは部屋に差し込みず、それが低い冬には差し込んで来て、部屋を20度以上に温めてくれます。また、光熱費に於いては、夏場のガス代がここまで少ないのは太陽熱温水器が大いに貢献しており、また家族全員が冬の寒さに弱いように感じておりますので暖房代として冬の電気代が少々かかっているようです。